



第4回遺跡発表会を開催

7月22日(土) 佐倉市立中央公民館大ホールにて、第4回遺跡発表会を開催しました。森浩一先生(同志社大学名誉教授)の講演も行われ、印旛郡市および関東における興味深いお話を聴くことができました。

また、佐倉市宮内井戸作遺跡(縄文時代)、八木山ノ田遺跡(奈良時代)、岩名2・3号墳(古墳時代)、内田端山越遺跡(平安時代)の調査成果も報告しました。当日はお天気もよく、約300名もの方々会場に足を運んでいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。



講演風景

《発掘中の遺跡》 10～12月予定

- 成田市 五十石込跡(近世)
佐倉市 内田端山越遺跡(古墳～奈良・平安時代)、宮内芋戸遺跡(古墳～奈良・平安時代)、宮内南台遺跡(古墳～奈良・平安時代)
四街道市 出口遺跡(第2次)(古墳～奈良・平安時代)、物井松葉作遺跡第2地点(旧石器時代、奈良・平安時代)
本笠村 龍腹寺裏遺跡(旧石器～縄文時代)



龍腹寺裏遺跡

- 印西市 馬場遺跡(第2次)(縄文・奈良・平安時代)

《室内作業》

こっちもやっています!

- 本部 佐倉市錦木198-3 ☎043(484)0126
先崎西原遺跡(佐倉市、縄文～奈良・平安時代)
生谷松山遺跡(佐倉市、縄文時代・古墳時代)
権現堂遺跡(四街道市、弥生～中世)
南作遺跡(四街道市、縄文～奈良・平安時代)
浮矢遺跡(四街道市、奈良・平安時代)

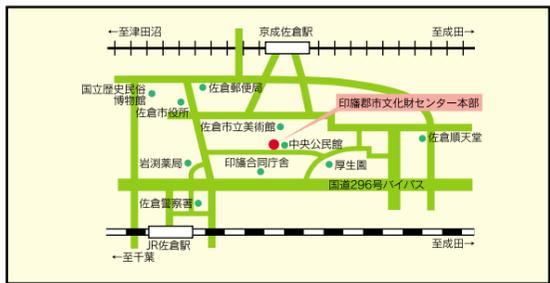


実測作業風景

- 成田事務所 成田市飯仲字台畑330-1 ☎0476(26)7208
岩名古墳群(佐倉市、古墳時代)
川栗館跡(成田市、古墳～中世)
宮本宮後遺跡B地区(佐倉市、古墳～奈良・平安時代)
郷野遺跡(四街道市、弥生～中世)
天神台遺跡(第8次)(印西市、弥生・奈良・平安時代)
弥富事務所 佐倉市岩富町538-1 ☎043(498)2735
宮内井戸作遺跡(佐倉市、縄文時代他)

《おしらせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡下さい。詳細は本部へお問い合わせを! 本誌は、年4回の発行の計画です。第7号は1月発行の予定です。今号のご意見などをお聞かせ下さい。



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 ☎043 484 0126(代) 043 484 8871 平成12年10月15日



栄町大畑 4遺跡



動物形土製品

栄町龍角寺地区は、古墳時代後期の群集墳である龍角寺古墳群、7世紀後半の創建といわれる古代寺院龍角寺、その創建時の龍角寺の瓦を焼いた龍角寺五斗時瓦窯跡、古代の都役所であった埴生都衙跡と古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての重要な遺跡が数多く所在するところです。

しかし今回調査の行われた大畑 - 4遺跡(房総風土記の丘より北東約500m)では周辺に所在する遺跡の様相とは異なり、当地区では検出例の少ない縄文時代後期(今から約4500年前)の竪穴住居跡や食物貯蔵用の土坑が多数検出されました。竪穴住居跡の中には柄鏡形住居と呼ばれる、平面形が"手鏡"の形をしためずらしい形の住居跡も検出されています。今回ご紹介する動物形土製品は6軒検出された縄文時代後期の竪穴住居跡の中の1つ、3号住居跡(4.2x3.7m・円形)より検出されました。動物形土製品は東北地方を中心とした東日本の縄文時代後・晩期の遺跡で数多く出土していますが、千葉県内では数例(佐倉市吉見台遺跡[イヌ]・市原市能満上小貝塚[イノシシ]など)の検出が見られるのみで、今回の発見は大変貴重な成果ということが出来ます。

出土した動物形土製品は体長が9.7cm・幅3.1cm・高さ3.4cmの小さなものです。残念ながら四足は欠損しており、目の表現も省略されていますが、口と耳そしてとがった尻尾が特徴的に表現され、体にはうず巻きの模様が沈線により描かれています。そして住居跡内より一緒に出土した土器や体に描かれた模様の特徴より縄文時代後期のものであると考えられます。

イノシシ?クマ?いったい何の動物を表現したのでしょうか。そしてこの動物形土製品を何の目的で製作したのでしょうか。自然への畏敬の念をあらわしたものののでしょうか? しばし皆さんも当時の人々の気持ちになって想像をふくらませてみて下さい。



3号竪穴住居跡遺物出土状況



動物形土製品出土状況

古代・仏教街道をゆく

～ 国道51号線周辺出土の仏教関連遺物 ～



長熊麿寺

[重圏文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦]

[唐草文軒平瓦]

[墨書土器「高麗寺」]

[瓦塔]

北大堀遺跡
[墨書土器「寺」]

将門鹿島台遺跡 [墨書土器「福カ寺」]

伊篠白幡遺跡 [香炉蓋]

長勝寺脇館跡 [鉄鉢形土器]

鉄鉢または仏様へのお供え物を入れるための土器と考えられています。

尾上藤木遺跡 [墨書土器「佛」]

馬橋鷺尾余遺跡
[灰釉陶器手付小瓶]

八木山ノ田遺跡 [仏面墨書土器]

[銅鉢]
僧侶の食器または仏様へのお供え物を入れるための鉢です。

[高台付香炉]

高岡大山遺跡

南広遺跡
[墨書土器「佛・佛」]

[墨書土器「白井寺」]

六拾部遺跡

[香炉]
香を焚いて不浄を払い仏様を供養するための土器です。



印旛郡では、どのようなルート(街道)で仏教が広まったのでしょうか？
 下総における仏教の本格的な導入は、下総国分寺の成立(8世紀後半)が契機であったようです。印旛郡では、下総国府及び下総国分寺(市川)～印旛沼沿岸地域～常陸国(茨城)に抜ける古代の主要道路に沿って、仏教が広まったとされています。左上の地図を見てください。印旛郡を南北に貫く国道51号線沿いには、奈良・平安時代の遺跡から仏教に関連した遺物が多数見つかっています。①北大堀遺跡(墨書土器「佛坏」「寺」出土)②長勝寺脇館跡(鉄鉢形土器出土)③長熊麿寺(瓦・墨書土器「高麗寺」・瓦塔出土)周辺には規則的な配列で掘立柱建物跡が見つかっていることから、古代印旛郡における政治経済上の中心地があったと考えられています。
 ④尾上藤木遺跡(墨書土器「佛」出土)⑤馬橋鷺尾余遺跡(鉄鉢形土器・手付小瓶出土)⑥将門鹿島台遺跡(墨書土器「福カ寺」出土)などの集落遺跡からも、仏教に関連した遺物が見つかっています。お寺に関わる宗教的な活動が行われていたといわれています。
 ⑦高岡大山遺跡では高台付香炉、銅鉢、墨書土器「寺」が、コの字形などにめぐる掘立柱建物跡周辺から集中して出土し、また⑧六拾部遺跡(墨書土器「白井寺」・香炉・鉄鉢形土器・瓦塔出土)では仏教に関連した遺物がほぼそろった状態で見つかっています。小規模なお寺が集落内に存在していたのでしょう。
 果たして、国道51号線に近いルートで仏教が広まったのでしょうか。皆さん、51号線を通ることがあったら、想像豊かに考えてみてください。日常を抜け出して、タイムスリップの旅というのも如何でしょうか。いつもの風景が違って見えるかも

実測図は各々の報告書より転載